

北九州市循環型社会形成推進基本計画(見直し案)に対する意見の概要と  
北九州市環境審議会の考え方

反映結果

- ① 計画に掲載済(一部掲載を含む)
- ② 計画の追加・修正あり
- ③ 計画の追加・修正なし(今後の参考とする等)
- ④ その他

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
<b>(1)計画全般に関するもの</b>			
1	計画内容は現実的でよいと思うが、環境首都を目指す北九州市の行政として特化した取組みや、未来が見えるストーリーがあると、よりよいのではないか。	計画の見直しでは、ごみ処理の基本である適正処理の確保と減量・資源化のさらなる推進を図る中で、最近の社会経済状況を踏まえて本市が新たに取り組むべき方向性を審議し、計画に記載しました。いただいたご意見を参考とさせていただき、今後の取組みを進めてまいります。	③
2	どこをどう見直すのかわかりにくい。	見直し内容の詳細につきましては、審議資料を全てホームページで公開しております。今後も、計画内容の周知に努めてまいります。	④
3	計画を策定する上で、人口動向をどのように予想しているのか。	日本銀行のシミュレーションを基に将来人口を推計しており、資料編に掲載しております。実際の動向と近似しており、今後もこの推計に基づき、計画を推進してまいります。	①
4	小倉駅裏にスタジアムを造っているが、それよりごみをきちんとする北九州にしてほしい	適正処理の確保はごみ処理行政の基本であり、計画を推進する中で、市の処理責任を果たしてまいります。	①

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
5	<p>「循環型社会形成推進基本計画」の源は「家庭ごみ、事業系ごみ」への対応からスタートし、北九州市の地域課題と併せながら補強されてきている。これから増加していくものとして「空き家」があるが、社会ゴミとするのか、地域の英知をもって地域資産にするのか、また新しい社会のしくみを考える等の視点が必要になり始めた。従来の対象からは大きすぎるものが市民生活の中に加わった。老朽化、空き家化した戸建て住宅の撤去に税金が投入され始めた。また近い将来RC造やS造等の集合住宅も同様の現象を引き起こす可能性が高い。それらの現象に対して対策だけでなく、戦略的に捉えていく必要がある。</p> <p>そのためには、特に&lt;P12～13、P34&gt;「計画の視点」の②の項目の「低炭素社会、自然共生社会への貢献」及び「取組の方向性」の2.「低炭素社会、自然共生社会への貢献」とあるが「ストック型社会」も加えて考えていただきたい。取組の方向性で(8)を新設し、低炭素型、環境配慮型、長寿命型の街づくり・建築住宅づくり(との連携)も加えていただきたい。「ストック型社会」は関連する計画の中で「環境モデル都市」に謳われている「ストック型社会」です。「いいものをつくって、長く使う」という概念が、ごみの量を減らし、資源・エネルギーの量を減らす。この視点は「都市マネジメント」の一翼をしっかりと担うものであり、更に「ストック型社会形成」を北九州市のセールス・ポイントに育てていきたいです。</p>	<p>ご意見を参考に、修正することとしました。</p>	②

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
<b>(2) 計画の目標に関するもの</b>			
6	市民1人一日あたりのごみ量が495gと減量が進んでいて、素晴らしいと思う。	ご意見ありがとうございます。今後も計画目標の達成に向け、努めてまいります。	④
7	家庭ごみ量30%削減、リサイクル率25%を上回っていることを、市民に自覚してもらうためにもっとアピールすればよい。	本市の家庭ごみ減量・リサイクル率は、政令市の中でも比較的高い水準で推移しています。処理実績については、毎年、環境情報誌「ていたんプレス」で報告しています。	③
8	目標値について環境首都を目指す北九州市が、他都市や全国に比べて、目標値が高いのか低いのがわからない。他都市又は全国との比較をし、示すことも必要ではないのか。	ご意見を参考に、市民の方の取り組み成果がより分かりやすく伝わるよう、努めてまいります。	③
<b>(3) 各主体の連携とそれぞれに期待される役割に関するもの</b>			
9	<p>循環型社会構築には、既存のリサイクル技術の高度化に加え、新たなリサイクル技術の開発が不可欠である。例えば、FIT導入により、九州地域は産業用や住宅用の太陽光発電システムが集積しており、これらの将来の大量廃棄に備え、技術開発と回収システムの確立が喫緊の課題である。また、レアメタル等の貴重な資源のリサイクル技術開発も重要である。</p> <p>現計画見直し(案)においても、計画の視点にて触れているが、以下の点について、記述を加えてはどうか。</p> <p>「VI 各主体の連携とそれぞれに期待される役割」 各主体として、「市民」「事業者」「NPO等」「行政」の4者に加え、「大学等の学術・研究機関」の役割を記載してはどうか。役割としては、学術的・専門的な知見の充実、信頼性のある、情報提供、新たな技術の開発と事業化支援等が挙げられる。</p> <p>また、太陽光やレアメタルのリサイクル事業化においては、一地域の取り組みだけではなく、広域的な連携体制構築が必要である。さらに既存の法改正も必要となるケースも考えられるため、この点は行政の役割として担うべきではないか。</p>	<p>本計画では、上位計画である「北九州市環境基本計画」に基づき、連携して取り組む主体を規定しています。なお、ご指摘のとおり、大学等の研究機関との連携も重要な視点であり、すでに計画に位置づけて取り組みを進めることにしています。</p> <p>また、太陽光パネル等、新たな社会経済動向を想定したリサイクル事業の取り組みについても計画に位置づけており、今後さらに推進してまいります。</p>	①

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
(4) 取組みの方向性に関するもの			
①最適な「地域循環圏」の構築			
10	<p>プラスチックのリサイクル量が減少傾向に見える原因のひとつには、スーパー等による有形透明容器の回収によるものがあると思える。店頭で集められた後、それらがどうなるのかは、不明である。</p> <p>そこで、発泡スチロールトレイ等のように、市が店頭等を借りて集めてはいかがか。</p> <p>有形透明プラスチックは硬いので、ごみ袋内でかさばり、さらに角のとがった部分で袋が破れがちであるため、ぜひ別途、スーパーや市民センター等で、市がボックス回収して欲しい。</p>	<p>本市では、資源化物につきましても、排出量の抑制等を目的に有料指定袋制度を採用しているところです。本市の基本的な考え方として、市民の分かりやすさやコストを含めた効率性等を勘案しながら、これまで分別・リサイクルを進めて来ています。ご指摘のとおり、資源の地域循環という観点は重要であり、ご意見を参考にしながら、今後もさらなる3Rの推進に努めてまいります。</p>	③
11	<p>プラスチック製容器包装は、家庭ごみで捨ててよいと認識している人が多い。(福岡市では分別していない。)周知ができていないのではないか。</p>	<p>計画にも記載していますように、プラスチック製容器包装の分別促進は大きな課題と認識しています。さらに広報・啓発に努めるとともに、より分かりやすいリサイクルの仕組みとなるよう、今後も国・関連事業者に要望する等の取組みを進めてまいります。</p>	①
12	<p>プラスチック製容器包装は、容器のプラマークをみないとわからないものが多くわかりづらい。もっと表示をわかりやすくすべき。</p>	<p>分別収集については、生ごみの腐敗性や収集コスト、堆肥の品質・用途確保の点で現時点では困難と考えていますが、生ごみの3Rは大きな課題と考えており、計画の中で今後対策を講じることとしています。生ごみの減量・資源化に向け、地域や民間事業者と連携しながら、コンポストで作った堆肥の用途拡大等の取組みを進めてまいります。</p>	①
13	<p>本市では家庭ごみの約半分は生ごみが占めているが、市が直接堆肥化施設を試験的に(農地の多い若松区で町内単位ぐらい)設置し、生ごみの堆肥化のためのノウハウや課題等を検証すべき</p>	<p>分別収集については、生ごみの腐敗性や収集コスト、堆肥の品質・用途確保の点で現時点では困難と考えていますが、生ごみの3Rは大きな課題と考えており、計画の中で今後対策を講じることとしています。生ごみの減量・資源化に向け、地域や民間事業者と連携しながら、コンポストで作った堆肥の用途拡大等の取組みを進めてまいります。</p>	③
14	<p>家庭の生ごみを分別収集し、堆肥プラントを市が作ったり、コンポストを事業者に助成するようなことはしないのか。</p>	<p>分別収集については、生ごみの腐敗性や収集コスト、堆肥の品質・用途確保の点で現時点では困難と考えていますが、生ごみの3Rは大きな課題と考えており、計画の中で今後対策を講じることとしています。生ごみの減量・資源化に向け、地域や民間事業者と連携しながら、コンポストで作った堆肥の用途拡大等の取組みを進めてまいります。</p>	③
15	<p>フードバンクとの連携を、今後どのように進めようとしているのか。</p>	<p>フードバンク活動団体と細やかな連携を図り、その活動を支援することにより、食品ロスの削減に努めてまいります。</p>	①

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
16	家庭から出る生ごみは、網袋に入れ、しっかりと水切りをするようにしている。	生ごみ減量化に取り組んでいただき、ありがとうございます。 生ごみの減量は今後の大きな課題であり、「使い切り・食べ切り・水切り」運動を今後も進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。	④
17	ごみは指定袋で出し、生ごみは水をよく切って出すようにしている。	生ごみ減量化のため、「使い切り・食べ切り・水切り」運動を進める中、最近では「残しま宣言」運動を開始した際に、市政だよりをはじめとした様々な媒体で広報しました。今後も、さらに周知啓発を進めてまいります。	④
18	生ごみを減らす「使い切り」「食べ切り」を市政だよりでアピールを。	生ごみ減量化のため、「使い切り・食べ切り・水切り」運動を進める中、最近では「残しま宣言」運動を開始した際に、市政だよりをはじめとした様々な媒体で広報しました。今後も、さらに周知啓発を進めてまいります。	①
19	コンビニのカット野菜は、1人暮らしの人は便利で、作りすぎることはないのだから良いと思う。	生ごみの減量化は、今後の大きな課題です。ごみ減量とともに、「もったいない」という観点からも、食べ残しをできるだけ減らせるよう、事業者等とも連携しながら取り組みを進めてまいります。	④
20	例えばごみ出しルールや食品廃棄物のことに関して、家庭と事業者で同じような記載があるが、家庭と事業者では役割や取り組みが違うので、その辺を区別して表現するなど工夫してほしい。	ご意見を踏まえて、記述を修正することとしました。	②
21	食品ロスに対する取り組みはよいことだと思う。市民はもとより、もっとコンビニや飲食店に意識を持ってほしい。先日「残しま宣言」応援店に行ったが、店からPRがなかった。注文してもらったほうが儲かるのでしょうけど、残った料理がもったいないので、もっとお客さんに「こんなことをやっているのだから協力してください」と働きかけがあったほうがよいと思う。もっと浸透に努めてほしい。	食品ロス削減を進めるため、事業者と連携し「残しま宣言」等の取り組みを進めることにしています。今後、より高い施策効果を上げられるよう、ご意見を参考に、取り組みを進めてまいります。	③
22	古紙を遠くまで運ぶのが大変なので、どうしてもごみとして捨ててしまうことが多い。	身近な回収拠点として、集団資源回収を広報しています。市内のほぼ全域で実施しており、今後も拡大に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。	④

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
23	空き箱や包装紙などの雑がみのリサイクル方法については知らない人が多い。	さらなる古紙資源化の推進のためには、雑がみ回収の促進が大変効果的です。計画でも重点的に取り組むこととしており、今後広報等の対策に努めてまいります。	③
24	ほとんどの家庭が雑がみをリサイクルしていない。衛生協会からの雑がみ回収袋が非常によいので、市が無料で各家庭に袋を配布してはどうか。	雑がみの回収促進は、ごみ減量・資源化に有効な取り組みであり、今後重点的に取り組むこととしています。市が過去に行った袋配布をきっかけに、地域団体や事業者が配布を始めており、このような取り組みと連携しながら、雑がみ回収を促進してまいります。	③
25	北九州市は、資源化物の回収拠点が少なく、場所も分かりにくい。	資源化物の出しやすさやコストを含めた効率性等を総合的に勘案し、現在の回収体制を構築しています。今後も利用しやすい回収体制の整備を図るとともに、市民の方の関心を高めるため、回収拠点の拡大や広報啓発に努めてまいります。	③
26	街なかに回収拠点を置くなど、市民に発信して巻き込んでいかないと、計画の実現は難しい。	資源化物の出しやすさやコストを含めた効率性等を総合的に勘案し、現在の回収体制を構築しています。今後も利用しやすい回収体制の整備を図るとともに、市民の方の関心を高めるため、回収拠点の拡大や広報啓発に努めてまいります。	③
27	他県の人から、北九州は分別がすごいと話題になる。	ご意見ありがとうございます。今後も、市民の皆さまの協力をいただきながら、さらなる3Rの推進に努めてまいります。	④
28	リサイクルできるものは、各地域の拠点にきれいにし出して出している。今後も継続する。	ご意見ありがとうございます。今後も、市民の皆さまの協力をいただきながら、さらなる3Rの推進に努めてまいります。	④
29	古着のリサイクルはいいことだと思う。とくに子どもの衣類は着る期間も短いのでリサイクルよりリユースできる仕組みづくりに力を注いでほしい	古着リサイクル事業においても、より優先度の高いリユースを進めていくことを計画に記載しています。ご意見を参考に、さらなる2R推進に取り組んでまいります。	①
30	1年に1回リサイクルファッションショーを実施している市民団体がある。古着のリサイクル教室は市民センターでもやっている。3Rの活動を広めてほしい。	ご意見を踏まえて、修正することにしました。	②

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
31	レジ袋については、有料化によりマイバッグ持参が多くなった。	ご意見ありがとうございます。レジ袋削減に向け、今後も取組みを進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。	④
32	販売しやすさからトレイが使用されているが、減らす方法はないのか。	計画では、事業者等と連携しながら、簡易包装の取組みを進めることにしています。ご指摘のリデュースは最も優先順位の高い取組みであり、今後も積極的に検討を進めてまいります。	①
33	粗大ごみについて、利用してくれる人が近くにいれば譲るようにしている。	ご意見ありがとうございます。2Rはリサイクルよりも優先度の高い取組みであり、今後ともご協力をお願いいたします。	④
34	福岡市では市内で発生する剪定枝を緑のリサイクルセンターで大々的に堆肥化を促進して、出来た製品を市民に安く提供して好評を得ている。本市においても、剪定枝の堆肥化施設を設置し、緑の成長戦略として推進すべき。	本市におきましても、剪定枝リサイクル推進を計画に位置づけており、今後も地域や事業者と連携し、取組みを進めてまいります。	③
35	エコッパーはどこで販売しているかが分からない。	ご指摘のように、家庭での3R行動が社会経済生活の中でどのような効果を上げているのかを、より分かりやすく伝える取組みが、さらなる環境活動の推進につながるものと考え、計画にも記載しています。	①
36	家庭から出る新聞紙からトイレトペーパーができていることをもっとアピールすべき。	「エコッパー」は地域循環圏構築のユニークな事例であり、今後も、市民や事業者への広報・啓発に努めてまいります。	①
37	スーパーのレジ袋のまま捨てているごみステーションを見かける。市政だよりなどで徹底周知してほしい。	本市では、ごみ減量やごみステーションの美観維持のため、指定袋の利用にご協力いただいております。違反ごみの取り置きやステーションでの指導を行っています。また、分別大事典の配布や環境情報誌「ていたんプレス」等での広報も随時行っています。ごみステーションの適正利用の確保に向け、今後も取組みを強化してまいります。	①

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
38	ごみステーションのブルーのネットがとてもよい。	ご意見ありがとうございます。ごみステーションの利便性向上や美観維持のため、今後も地域支援に取り組んでまいります。	④
39	カラスは黄色が苦手、山吹色のごみ袋にしてカラスが寄り付かなくなったと聞いたことがある。	本市でもテストしたことがありますが、カラスが慣れると効果がなくなるという結果が出ました。今後も、ごみステーションの利便性向上・美観維持に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。	④
40	カラスよけのネットをかけるのがへたな人が多い。市政だよりに大きく書いて。	ごみステーションの美観維持には、ごみ出しルールの徹底とともに、ネットの適正な利用が大変効果的であり、環境情報誌「ていたんプレス」等で随時広報しています。今後も、ごみステーションでの個別指導等とも併せて、取り組みを進めてまいります。	①
41	年配の方の住宅や学生が多いアパート付近では、ごみステーションが散乱し、目に余ることがよくある。夏場は不衛生で景観がよくない。鳥や猫のえさアサリが原因。	ごみステーションでの個別指導等とも併せて、取り組みを進めてまいります。	①
42	福岡市がごみの収集を夜間にやっている。カラス問題、美的にも賛成。	夜間収集につきましては、カラス対策やまちの美観向上に資するというメリットが考えられますが、一方で、人件費や機材費などのコストアップ、収集作業の安全性などの問題があります。また、深夜作業による騒音の問題、夜間にごみを持ち出すことによる利便性の低下や安全性の問題、ごみへの放火、犬や猫によるごみの散乱という心配もあります。今後も、カラスによるごみの散乱対策等、地域の取り組み支援や広報・啓発に努めてまいります。	③
43	家庭ごみステーションは、網をかけてもカラスがごみをつついて油断できない。	ご指摘のような場合は、生ごみを新聞に包んで外から見えないようにすると、効果的です。今後も、ごみステーションの美観を維持するため、地域の取り組み支援や広報・啓発に努めてまいります。	③

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
44	ごみステーションの清掃を町内で輪番制にしているのに町内会に入っていない人や町内以外の人のごみを捨てに来て散らかることもある。町内会の大事さがわかるようにPRしてほしいし、市民のごみ出しマナーやごみステーションに対する責任感が上がるようなことを啓発してほしい。	ごみステーションは、地域の力を生かした取組みによって維持されています。今後も、環境審議会答申「ごみステーションのあり方について」に基づき、市と地域が車の両輪となった、ごみステーションの維持管理に向け、取組みを進めてまいります。	①
45	勤めている方のため、ごみ収集日が土曜日・日曜日であればよい。	本市では、確実かつ効率的にごみを処理するため、収集曜日・ルートを決めて最適な体制を構築し、計画的な収集を実施しています。今後もごみの適正かつ効率的な処理の確保に努めてまいりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。	③
46	勤めているので、日曜日の収集を希望する。		③
47	ごみとして出すとコストがかかるし、最近段ボールは有価で引き取ってもらえるので、各店舗でごみ量を数値管理し、分別はかなり徹底してやっているはず。ごみが増えているという実感はないが、売上自体が伸びており、店舗も増えていることから、全体的にはごみ量が増えているのかもしれない。	事業所のごみ処理状況をより詳細に調査・分析し、ご意見を参考に、事業系ごみ対策を進めてまいります。	③
48	事業系ごみが増えているということは、経済活動が活発になっているという側面もある。		③
49	北九州市は、事業系ごみの処理料金が安い。3Rの意識を高めるために、仕組みを変える必要がある。家庭ごみも、仕組みを変えたことで減っている。	手数料については、ごみ減量と同時に、排出者処理責任・リサイクル事業者の育成という観点も含めて、適正なあり方を検討する必要があります。ご意見を参考に、計画に示す方向性に基づき、必要に応じて検討を進めてまいります。	③
50	長期的なコスト計算により、手数料を上げて増えた収入をリサイクル業者の育成に回すなどの対策を取る方法もあるのではないかと。		③
51	処理手数料のあり方の検討とあるが、具体的に値上げ時期は検討しているのか。	現段階で、手数料の改定について具体的な検討を行っているものではありません。計画には、ごみ出しルールの徹底や3R推進の周知・啓発等の取組みを行いながら、ごみ処理状況を注視し、必要に応じて適正な手数料のあり方を検討するという今後の方向性を示しています。	④

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
52	家庭では分別を徹底しているが、事業所では、回収業者が資源化物を分けせず、紙とPETをまとめて回収するなどしており、分別が徹底されていないのではないかと。	計画にも記載していますように、処理マニュアルの策定や指導・啓発を強化することにより、事業系ごみの適正処理と減量・資源化を進めてまいります。	①
53	アルバイト先(外食系)では、事業系ごみ袋に何でも入れていいと言われている。分別の意識が低い。		①
54	特に繁華街において、事業者が出したごみをカラスが散乱させている。市として、事業者への指導を強化する必要がある	市の広報誌や事業者へのチラシ配布を通じて、事業者には、自らの責任において適切にごみを処理しなければならないことを周知・啓発しています。苦情や相談などについては、事業所を訪問する等の指導を引き続き行っていきます。	①
55	飲食店前のごみが荒らされて散らかることがあるので、飲食店もちゃんと指導してほしい。もっとごみ出しのルールを守ることを市民や事業者の義務・役割としてちゃんと書いたほうがよいと思う。	ごみ出しルールの徹底については、計画に記載しており、事業者のステーションへの不適正な持ち出しに対する指導を強化していきます。また、ルールを守らない市民への指導やPRへの取組などを行ってまいります。	①
56	ごみステーションでのごみの散乱や飲食店の出すごみがカラスにつつかれるなどもあるので、家庭や事業者が、ごみ出しのルールをしっかりと守るよう計画にも明記してほしい。		①
57	事業所から出る雑がみや機密古紙のリサイクル方法はどのように啓発しているのか。	事業所へのチラシ配布や、説明会により啓発を行っています。今後、処理マニュアルの配布等により、さらに分かりやすい広報・啓発に努めてまいります。	④
58	飲食店では、食べ残しがあれば元価に跳ね返るため、食品ロス削減に最大限努めている。生ごみは、小売業者の排出が圧倒的に多いはず。生ごみの排出現場を、実際に見てみるとよい。	食品廃棄物等、事業系ごみの排出実態を詳細に調査・分析し、事業者への周知啓発等の対策に生かすよう計画しています。いただいたご意見を参考に、今後の施策を進めてまいります。	③
59	食品ロスについて、値引き販売でも売れないものは、廃棄している。削減を進めるべき。		③
60	リサイクルに取り組むことで、堆肥で作った野菜を安く仕入れることができるなど、食品循環の仕組みを構築できればよい。	食品リサイクルを進めるため、事業者間の連携がより進むような仕組みづくりの支援等、ご意見を参考に今後の施策を進めてまいります。	③

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
61	<p>焼却工場の処理能力については、余力のない稼働の焼却工場では心配である。本文には、「ごみ量の将来推計からすると、新たな焼却工場の整備を行わない場合、現在受入処理をしている他都市のごみだけでなく、本市のごみについても処理能力が不足するおそれがあります。」とあるし、特にプラスチックの増加が見込まれるので、プラスチックごみのマテリアルリサイクルを推進するにしても、焼却炉の延命化等を考えると、余力が必要である。他に、災害等で大量に発生するごみへの対応、市内の他焼却工場のオーバーホール時や老朽化による建替えの対応などを考えると、余力は必要だと思える。</p>		③
62	<p>ごみ減量化や食品廃棄物の削減、リサイクル率の向上、CO2 排出の削減など。目標の見直しをおこない、具体的な取り組みを強めることは必要だと考えます。ところが、ごみ処理工場について現状維持・拡大の方向となっており、ごみ減量化に向けて努力している市民の目線から考えると、維持・拡大ではなく削減及び規模縮小へ向けた検討がされなければならないと考えます。</p> <p>「見直し案」では日明工場の設備更新を行うとしています。現行の3工場体制を維持しなければ「現在受入処理をしている他都市のごみだけでなく、本市のごみについても処理能力が不足するおそれがある」としています。本市の焼却するごみ量の推移をみると、2工場の処理能力で焼却可能な状況にあるとおもわれます。(2つの工場の稼働率が不明な点がありますが)、他市町のごみ処理に1つの工場が活用されている数字となっています。本市のごみ処理に必要なごみ処理工場更新への合理的な理由に欠けており、数百億円にもなる莫大な建設経費を投じる本事業に対して、市民の合意を得るためにも、さらなるごみ減量化への取り組み、コスト削減の観点からごみ処理工場のあり方について再検討を求めます。</p>	<p>今後のごみ処理体制のあり方は、主な審議項目の1つとして、環境審議会で審議を行いました。</p> <p>ごみ量の将来推計を踏まえ、市内のごみの適正かつ安定的な処理を確保するため、また、現在の広域処理を継続するため、日明工場の更新は必要であり、これから整備計画を進めてまいります。</p> <p>その処理能力については、今後のごみ減量施策や広域処理を進める中で、ごみ量の将来的な動向を精査し、安定的・効率的な処理を確保するために適切な規模となるよう設定し、その後使用期限を迎える他の2工場のあり方も含め、最適な処理体制を目指すことにしています。</p> <p>ご意見を参考にしながら、今後の処理体制の検討を進めてまいります。</p>	③
63	<p>30ページに記述のある意見付記については、民間企業における生産段階における工場等は勿論、焼却施設や下水処理場といった公共の処理施設についても当然効率性の高い運転管理は追及していくものだが、大規模で温度や圧力が高く物理化学的に一定の高い技術を要する焼却工場のような施設については100%に近い状態での稼働というのは大きなリスクを抱えていると言わざるを得ない。と言うのは、一旦建設した後、30年を超える長期間の運転の中では、焼却負荷量の変動(ごみ量やごみ質の変化)、オーバーホール、補修点検、老朽化など様々な問題があり、この問題の解消に長い時間の対応が必要な上に、不測事態の対応と言った観点からは十分なセーフティネットが整備されているとは言い難い。経済合理性だけを追求して、焼却工場の職員がいつもストレスを感じ、ミスを生じたり、不測事態に対応できないことなどは避けるべきである。このような施設については官民間問わず一定の余裕率を勘案して設計建設されるものである。市民の安全安心の担保は効率性と安全性とのバランスの中で議論されるものと思われる。</p>		③

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
64	<p>現在、8市町からのごみ処理を行っています。「見直し案」ではごみ処理の広域連携で「本市のごみ処理施設の処理能力の余裕を活用し、期間を定めて受け入れてきた」としています。新たに「連携中枢都市圏構想」の取り組みとして、受け入れ要請の自治体があった場合は、受け入れ前提で検討するとしています。</p> <p>本来、自分たちのごみは自分たちで処理するのが自治体としての大原則であると考えます。住民の暮らしを守るためには欠くことのできないごみ処理事業は、税金を使つての優先される事業であり地方自治体の基本的な役割と任務だと考えます。</p> <p>国のすすめる「連携中枢都市圏」での広域連携でのごみ処理がどうしても必要であるとするならば、国や県がその役割を果たす必要があります。</p> <p>また、大規模災害時の廃棄物の処理については、焼却工場の能力を上げるのではなく、見直し案にもあるように廃棄物を集積する場所の拡大などで対応し、一都市に集中するのではなく広く日本中の非災害地の協力を得て廃棄物の処理を進めることが必要ではないのかと考えます。そのためには、東日本の教訓を生かして、国の迅速な対応が必要であり、災害廃棄物に関する規定等の整備が必要であると考えます。</p>	<p>ごみ処理につきましては、各市町村がそれぞれ計画を策定・管理することにより、処理責任を果たしています。</p> <p>一方、これから処理施設の老朽化が各地で進む中で、安定的かつ効率的なごみ処理体制を維持するとともに、ごみ発電を活用した低炭素社会を構築するためには、一定以上の規模と性能を有した処理施設が必要であるという観点から、広域処理の要請が高まっています。</p> <p>このような状況と、本市が北九州都市圏域の中核都市となったことを踏まえ、現在行っている広域処理は連携中枢都市圏の取組みとして引き続き実施し、他都市の判断で本市に新たな受入れの要請があれば、本市の基本的な考え方に基づき、受入れについて検討するという方針を計画に位置づけ、本市における広域処理を行っていきたいと考えています。</p> <p>また、災害につきましては、ご意見のように、焼却工場の自立的な運転能力やごみ保管能力の確保による対応を検討しながら、今後、災害廃棄物処理計画の策定などを進めてまいります。</p>	③
65	<p>一般廃棄物の処理処分については、法律上、個々の地方公共団体の責任と判断で決定されるものであり、北九州市がとやかく言えるものでない。一般論で言えば、中小の市町村にとって、①ごみ処理施設や上下水道施設等は運転管理や公害防止に一定の技術を要すること、②施設の必要性は認めるが建設地域住民から迷惑施設として反対されること、③建設費等の住民負担の増大等を考慮すると広域的対応が望ましいのは明らかである。意見で言われている“一定地域での単位での分散的な広域処理をした方がよい”、と言うのも考え方としては同じであり、地域単位というのがまさに連携中枢都市圏のことであろう。</p>	<p>このように、焼却工場の自立的な運転能力やごみ保管能力の確保による対応を検討しながら、今後、災害廃棄物処理計画の策定などを進めてまいります。</p>	①
66	<p>連携中枢都市圏の構成都市は、本来合併してもいいところ。県全体を見て、広域の観点から工場の再整備を進めるべき。</p>		③
67	<p>市外のごみは、周辺都市の面倒をみるぐらいの太っ腹で頑張してほしいと思う。東日本大震災のがれき処理のときに反対派の様子がマスコミ報道されて市民として恥ずかしかつた。お互い様助け合いの精神をしっかりと持つべきと思う。</p>		③
68	<p>ごみ処理は、市民生活・経済生活において重要なライフラインである。これからはPCBやごみ処理など広域で、環境で飯を食うという方向性があってよい。</p>		③

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
69	分散的な広域処理の考え方もあるが、北九州市にあるような高性能の焼却工場は周辺自治体には望めず、中程度の機能しかない工場では、ダイオキシン問題を含め、環境対策が十分できるとは思えない。本市のごみ処理に関しては、周辺自治体の知人・友人からも称賛の声が上がっており、北九州市の誇れる政策の一つではないかと思う。周辺自治体の市民へも、北九州市の環境人材が出前講演等に出向いて環境教育を推進し、広域連携で、本市と一体となって北九州市と同等あるいはそれ以上のリサイクル、減量が実践できるようになることが望ましいのではないだろうか。	本市が掲げる受入れの三原則では、本市と同等以上のごみ減量・リサイクルに努めることとしており、他都市が本市の施策と協調的に取り組んでいる状況を確認した上で、受入れを行っています。今後も、地域全体での環境保全と循環型社会推進の取組みを進めてまいります。	①
70	災害対応について、同様の記述が多くあり気になる。もっと整理したほうがよいのではないか。	災害廃棄物につきましては、今後処理計画を策定する中で、具体的な対応を検討するという基本的な考え方に基づきつつ、災害時における処理施設や広域連携のあり方、有害廃棄物の処理等、分野別に今後の方針を本計画に記載しています。	③
②低炭素社会、自然共生社会への貢献			
71	城野のゼロカーボン先進地区では、CO2排出ゼロを目指しているようだが、ごみの減量や資源化の取組みがあるのか気になる。	城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業は、街区単位でCO2排出量を大幅に減らす先進モデルを具体化し全国に発信することによる、低炭素社会の早期実現を目的としています。ごみの3Rに関して特段の取組みは行っていませんが、低炭素と省エネの観点から、エコ住宅、エネルギーマネジメントによるエネルギー利用の最適化、公共交通の利用促進など、様々な低炭素技術や方策を総合的に取り入れて、ゼロ・カーボンを目指した先進的な住宅街区の整備を進めています。	④
72	バイオマスの活用とあるが、どのように進めるのか。	生ごみの堆肥化、間伐材や下水汚泥等のエネルギー資源としての活用等を計画に記載しており、今後この方向性に沿って取組みを進めてまいります。	④

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
73	外国と比べて、日本では環境教育が普及しているが、環境問題の解決には、さらにきめ細かく教育をすることが重要。	ご意見を踏まえ、修正することになりました。	②
74	ごみの減量化・資源化の推進とあるが、幼少時からの家庭のしつけが大事。あわせて幼稚園・小学校低学年での団体生活を通じて社会性の教育を行い、家庭と学校の両立で実施すれば、必ず実現できるのでは。		②
75	減量の取組みとして地域社会も大事だが、幼少期からの生活習慣に取り入れ、家庭でのしつけをまず教えるようにしたらよいと思う。		②
76	ごみの問題は1人1人がどれだけ理解し、認識をするかで多少は改善すると思う。		②
77	CSRの観点から、小規模事業者にも取組み発表の機会や表彰制度があれば、やる気が出る。	循環型社会の形成に向けた積極的な取組みについて、表彰を行い広く周知する等、事業者の取組みを評価・PRする仕組みを検討することにしていきます。ご意見につきましては、今後施策を進める上での参考にさせていただきます。	①
78	動機付け、インセンティブがあれば、事業系ごみの分別が進むのではないか。		①
79	指定袋は、大・中・小・特小とあって、とてもよい。	ご意見ありがとうございます。指定袋は、分別が進みごみ量を減らすほど負担が減るよう、サイズに応じて手数料を設定しています。今後も、ごみ減量へのご協力をお願いいたします。	④
80	2人暮らしなので家庭ごみ特小で出している。分別をそれなりに頑張っている。		④

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
81	家庭ごみ指定袋の値段が高い。安くしてほしい。	ごみ袋の手数料につきましては、H18年に家庭ごみ収集制度を見直した際に、現在の額に改定しています。減量・資源化促進のほかに、排出者の処理責任や負担の公平性等の視点で検討し、20%以上のごみ減量を達成できるレベルとして、現在の額を設定しました。	③
82	ごみ袋の値段が高い。ごみは各家庭から必ず出るもの。現在の半額くらいが適当。	その結果、市民の方のご協力により30%のごみ減量を達成し、リサイクル率についても目標の25%を上回る状況が続いています。この循環計画では、持続可能な社会を目指し、さらなる減量を目標として取組みを進めています。	③
83	ごみを28年10月から値上げすることを検討してはどうか。ごみを少しでも減らそうと市民1人1人が考える一助になると思う。	以上の状況から、現段階では家庭ごみ袋の手数料を改定する状況にはないと考えているところであり、引き続きご協力をお願いいたします。	③
84	ごみ袋に詰め込むと破れるので、改善してほしい。	ごみ袋は、一定の品質を確保するため、本市が随時検査をしています。今後も、破れにくいごみ袋の調査研究等の取組みを継続的に行ってまいります。	③
85	ふれあい収集は、もっと浸透に努めてほしいし、将来は対象をひろげてほしい。	高齢者等へのごみ出し支援として、市内にはふれあい収集以外にも介護保険のホームヘルプサービスとして実施されているもの、社会福祉協議会の「ふれあいネットワーク」、シルバー人材センターの「ワンコインサービス」といった地域や民間事業者による活動があります。そのため、利用者が自分の状況に合わせて選択することが適切と考えており、ふれあい収集の要件は現行のままと考えています。今後とも、ふれあい制度が市民の皆さんに広く浸透するよう、さまざまな機会をとらえて、PRに努めてまいります。	③

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
86	団地ではきちんとしたごみ集積所がありきれいだが、一般のごみステーションはネットだけなのでカラスや猫が寄りやすい。もっとスペースがあれば対策ができると思うが、補助金的なものはないのか。	本市では、ごみステーションの維持管理や集積容器の設置に対する補助制度がありますので、ぜひご利用ください。	④
87	繁華街のポイ捨てがひどい。一層の啓発が必要。	市民のまち美化意識の向上を図るため、春は「クリーン北九州」まち美化キャンペーン」、秋は「市民いっせいまち美化の日」のまち美化事業を実施しています。特に駅周辺や繁華街等多くの市民が集まる地域は、まち美化促進区域に指定して重点的にポイ捨て防止の啓発をしています。引き続き、まち美化に関する広報・啓発活動に取り組んでまいります。	③
③環境国際協力・ビジネスの推進			
88	リサイクル事業を育てる上で、さらなる企業間連携、エコタウンの活用策を検討するべき。	「環境国際協力・ビジネスの推進」の項目で、エコタウンや環境産業推進会議を活用し、海外も視野に入れた取り組みを推進するようにしています。ご意見を参考に、今後の施策を進めてまいります。	①
89	VII-3-(2)環境分野における技術開発の促進 「既存産業間での廃棄物の有効利用や民生利用を含めた未利用エネルギーの利用促進に向け」とあるが、新分野でのリサイクル技術開発の視点が感じられない。例えば、再生可能エネルギー関連部品(太陽光発電パネル)等の文言を加えてはどうか。	ご指摘のとおり、太陽光パネル等の新たなリサイクル事業の推進は今後取り組むべき課題であり、「低炭素社会、自然共生社会への貢献」の項目で記載しています。	①
90	下水汚泥の活用とあるが、どこで使用しているのか。	下水汚泥は、市内事業者が使用する炉での燃料代替として、活用されています。	④

No.	意見の概要	環境審議会の考え方	反映結果
91	<p>本市の環境国際協力については他都市のそれと比べて高く評価されているようであるが、ビジネスとかなかなか結びついていないように思える。20年以上にわたってビジネスの推進の掛け声は続いているが中国・大連を始めアジア各都市の名前があがったが、スラバヤでの廃棄物業者がやっと一つの成果のように聞こえる。なぜ、長い間取り組みを実施してきたのに成果があらわれないのか、その検証をしっかりと行いどこに問題等があるのか明確にする必要がある。</p>	<p>本市では市内環境関連企業の海外展開支援を行うため、平成22年にアジア低炭素化センターを設立し、これまで市内企業を中心に91社と連携・協力して、115件の支援を実施してきました。ビジネス成立した事業は、スラバヤでの廃棄物事業の他、中国での省エネ事業など、15件となっています。今後も競争力のあるビジネスモデルの構築や資金調達等の課題を解決しながら、都市インフラ輸出をより積極的に展開し、本市の活性化につなげていきたいと考えています。</p>	③
<b>(4) 計画の推進に関するもの</b>			
92	<p>見直しても不具合が必ず出る。改正は都度必要。</p>	<p>計画につきましては、社会経済状況やごみ量の動向等に的確に対応するため、適宜見直しを行うことにしています。いただいたご意見を今後の施策の参考とし、取り組みを進めてまいります。</p>	①